

Ti-2006 in CIS 国際会議/Z-TMC社記念式典参加報告

西野元樹*

NISHINO Motoki* Ti-2006 in the CIS/50 Years Anniversary of First Titanium Sponge in the Former USSR

The 4th international conference Ti-2006 in the CIS (Russia, Suzdal) and the 50 years anniversary for the first titanium sponge in the former USSR were held in the end of May 2006 and June 2006. Herby I am pleased to report the short summery of them, specially current situation and future plan about VSMPO-Avisma and Z-TMC as follows:

1. はじめに

03年末からのチタン市況好転により、各社ともチタン事業の売り上げ/利益とも好調な成果を上げているが、CISのチタン産業も同様にその恩恵を受けている。すでに西側チタン産業との密接な関係を構築しているVSMPO-Avisma (ロシア)、UK-TMK (カザフスタン)はいうまでもなく、ここ数年で大きく変化しているのが、Z-TMC社 (ザポロージェヌイチタン・マグネシウム工場、ウクライナ)である。そんな中、5月末、6月末と第四回CISチタン国際会議 (ロシア連邦スズダリ市、5月21日~24日)、旧ソ連スポンジチタン生産50周年記念式典 (ウクライナザポロージェヌイ市、6月29日~30日)が開催され (Photo. 1, 2)、参加することになったので、下記のように報告いたします。

2. Ti-2006 in CIS 国際会議

すでに会議の詳細はチタン誌 Vol. 54 No. 3にて北岡元専務理事からご報告いただいているので省略するが、今回の会議にて参加者が一番興味を持っていたのは、VSMPO-Avismaのロシア政府による買収問題の動向であった。今回、同社からはストラシュコフ氏 (航空宇宙分野向け販売担当役員)以下総勢6名の顔ぶれであった。講演初日の22日 (月)の早々に同氏が、『VSMPO-Avismaの現状と見通し』というタイトルにて、同社の現状及び今後の増産計画を含めた見通しについて講演を

行った。

主な講演内容としては、

- 展伸材分野での欧米主要メーカーとの比較においての同社の強み (スポンジチタン、インゴット、厚板、薄板、溶接

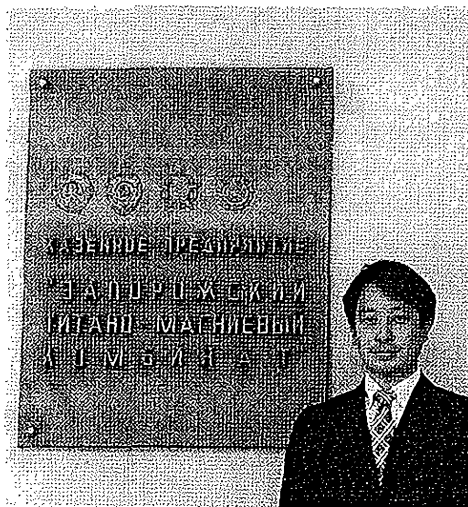


Photo. 1 Entrance of Z-TMC, writer.



Photo. 2 Dr. V. V. Telin, Director General of Z-TMC.

* アドバンストマテリアルジャパン(株)
CIS 貿易グループリーダー
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9番13号三会堂ビル4F
Sales Dept. CIS Trading Group, Manager
ADVANCED MATERIAL JAPAN CORPORATION
9-13, Akasaka 1-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan
mo-nishino@amjc.co.jp

管、大型鍛造品、リング、バーなど全品目に対応できるのは、VSMPO-Avismaのみ)

- 世界48カ国に300社、ロシア国内に1,500社の販売先
- 75,000Mt プレスを始めとする同社の航空機用大型部材供給を可能とする設備の紹介
- 今後の増産計画

スポンジチタン：26,000Mt (2005年)⇒44,000Mt (2010年)

展伸材：20,700Mt (2005年)⇒35,300Mt (2010年)

また、講演の最後にロシア政府による買収問題に触れ、『恐らくここにいる全員が興味を持っているとは思いますが、現在交渉中であるため、具体的なことはまだいえる段階ではない。ただし、ロシア政府としても金の卵を産む鶏であるVSMPO-Avismaに対し、悪いことはいないので、ご心配なきようお願いしたい』とのひとことで講演を締めくくったのが、印象的であった。

3. 旧ソ連スポンジ生産50周年記念式典

旧ソ連にある3スポンジチタン工場のうち、最初に建設されたザポロージュヌィ スポンジチタン工場 (Z-TMC社、ウクライナ) でソ連最初のスポンジ (Photo. 4) が生産されて今年で50周年となる。そのため、6月29日～30日の日程で記念式典が行われ、参加する機会を得たので、下記のように報告いたします。

【Zaporozhnye Titanium & Magnesium Combine 社の概要】

1935年に Dneprosky Magnesium Zabod (ドニエプロマグネシウム工場) として設立。

その後、ザポロージュヌィ地方のドニエプロ州からの分離、1956年からのスポンジチタン生産もあり、Z-TMC社と名称を変更。

ソ連時代はMax. 20,000Mtのスポンジチタンを生産、従業員も8,000人いたが、現在は8,500Mt (2005年)の生産、従業員も約4,000人。100%国営企業。

同社は連邦崩壊による販売ルートの崩壊によって、93～98年の5年間生産を休止せざるを得ない状況であった。その後99年より生産を再開したが、設備の老朽化により生産数量の大半がTG-TV (鉄鋼添加グレード) であった。ただし、展伸材グレードのスポンジチタンが世界中でタイトとなる中、Fe-Ti/TG-TV相場も大きく上昇したことにより、同社の経営も安定し設備投資に資金を回せるようになった。そのため、現在では同社の生産において、TG-100等の展伸材グレードの比率が飛躍的に増えている。多くのスポンジチタンメーカーが



Photo. 3 Dinner on 29th June, 2006.



Photo. 4 The first titanium sponge in USSR.



Photo. 5 Nishino, Dr. Telin (President of Z-TMC), Rakhman (AMJ Moscow).

主要需要家との間で長期契約ベースでの供給をしており、スポットマーケットに回せる数量がほとんどない中、現在同社のみがスポットマーケットに展伸材グレードのスポンジチタンを供給している。国営企業であるためのいくつかの問題もあるが、既に西側需要家での使用実績もあり、今後展伸材グレードスポンジチタンの新たな供給先としての同社の役割に期待したい (Photo. 5)。